

2010年10月資料展示

<新聞の今昔>

毎年10月の中旬は秋の「新聞週間」です。現在、日本では5000万部の新聞が発行され、135社の新聞社（新聞協会加入数）が報道機関としてテレビやラジオと並んで私たちに情報を提供してくれています。テレビやインターネット、電子書籍の登場によって、紙媒体の新聞など活字メディアの凋落が論じられていますが、部数が減少しているとはいえ、新聞のマスメディアとしての信頼性には高いものがあります。

立教大学では、明治時代の初期の新聞から、戦前の「立教大学新聞」、関東大震災を伝えるロンドンタイムズ紙、朝日・読売などの縮刷版、マイクロフィルムを所蔵しているほか、図書館ウェブサイトを通じて「新聞記事データベース」を学内で利用できます。

立教大学図書館

<展示資料>

- ① 瓦版：「大地震記」嘉永7(1854)年（東京大学社会情報研究資料センター、画像提供）
- ② 「中外新聞」37,38,40号 慶応4(1868)年（立教大学新座保存書庫 大久保文庫より）
- ③ 「うきよ新聞」三益社 1201-1217号 1882年（立教大学新座保存書庫 大久保文庫より）
- ④ 「東京日日新聞」967号 錦絵新聞 明治初期（立教大学 江戸川乱歩コレクションより）
- ⑤ 「立教大学新聞」大正13(1924)年11月5日（関東大震災で修築中の図書館の写真）など
- ⑥ 「Rikkyo Echo」昭和32(1957)年6月（野球部優勝を報じる写真）など
- ⑥ The Times（ロンドンタイムズ）1962年4月28日号
- ⑦ The New York Times 2001年9月12日号（同時多発テロを報じる）



大正13年11月5日付『立教大学新聞』（左）、1957年6月付『Rikkyo Echo』（右）
※立教大学図書館「デジタルライブラリ」データベースよりダウンロード

今日、インターネットの普及により、紙のメディアとしての新聞、「新聞紙」は大きな転機を迎えている。パソコンや携帯端末上で新聞を容易に閲覧・購読できるようになりつつある。その意味では、新聞の存在形態そのものの根幹が揺さぶられているといっても過言ではない。しかし、これは原義にたしかえれば、「新聞紙」("Newspaper") という形態のメディアの危機ではあるが、そのことは、「新聞」("News") が不要になるということイコールではない。むしろ、ますます大量の情報が氾濫する社会において、人々に正確な情報を伝えたり、権力の動きを監視したり、人々が意見交換する場を提供したりするための「新聞」というメディアの重要性は、ますます増えているというべきであろう。



1962年4月28日 欧米化された日本を報じる
ロンドンタイムズ紙

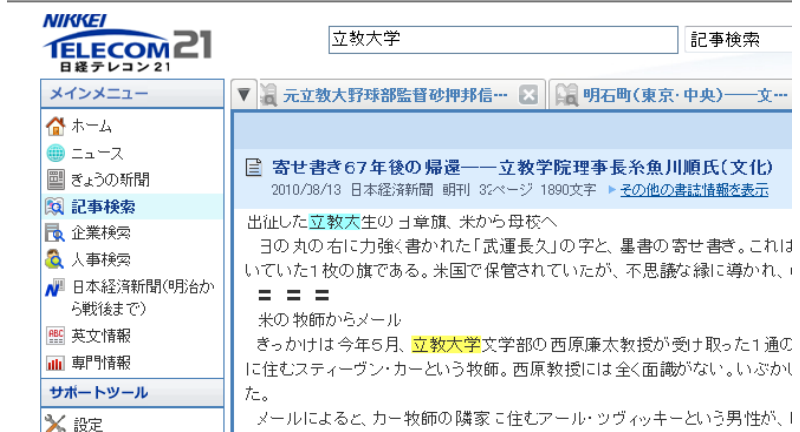


2001年9月11日同時多発テロを報じる
12日付ニューヨークタイムズ紙

【新聞縮刷版、マイクロフィルム】



【日経テレコン新聞記事データベース】



※立教大学キャンパス内（新座含む）では、インターネット上で下記のような新 記事全文データベースにアクセスすることができますので、是非ご利用下さい。

